



ぶたいげいじゅつどうそうごう し えん じぎょう がっこうじゅんかいこうえん
舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)
独立行政法人日本芸術文化振興会

れい わ ねん ど がっこう じゅんかい こうえん
令和7年度 学校巡回公演

のう がく こう えん
能楽公演

のう やく しゃ
能の役者になってみよう!

いっぽんざいだんほうじん のうがくどう かしょうかく
一般財団法人 能楽堂 嘉祥閣

がっこう じゅんかい こうえん
「学校巡回公演」

ぜんぐく しょうがくこう ちゅうがくこうとう
全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。

敦 盛

あつ

もり

〔前シテ〕 草刈男 〔後シテ〕 平敦盛
 「ワキ」 蓮生法師 「ツレ」 草刈男
 〔間狂言〕 里人

ワキ 「これは、武藏の国の住人。熊谷の次郎直實出家し蓮生、法師にて候。これより、一の谷に下り。敦盛の御跡弔ひ申さばやと、思ひ候。」
 シテ 「草刈笛の聲添へて。吹くこそ野風なりけれ。」
 ワキ 「いかにこれなる草刈達に申すべき、事の候。」
 シテ 「此方のことにて候か、何事にて候ぞ。」
 ワキ 「只今の笛をば面々の中に、吹き給ひて候か。」
 シテ 「さん候我等が中に、吹きて候。」
 ワキ 「その身にも応ぜぬ業を、たしなみ給ふ事。返す返すも、やさしうこそ候へ。」
 シテ 「その身にも応ぜぬ業と、承れども。それ勝るをも、羨まざれ。劣るをも賤しむなとこそ、見えて候へ。その上樵歌、牧笛とて。」
 ツレ 「草刈の笛木樵の歌は。歌人の詠にも作り置かれて。世に聞えたる笛竹の。不審ななさせ給ひそとよ。」
 ワキ 「げに面白き答へかな。さてさて樵歌牧笛とは。」
 シテ 「草刈の笛。」ワキ「木樵の歌は。」
 シテ 「舞ふも。」ワキ「吹くも。」シテ「遊ぶも。」
 シテ 「いかに、申し候。余の草刈達は皆々、御帰り候に。御身一人、残り給ふこと。何の故にて、あるやらん。」

ワキ 狂言 「また御用のこと候はば、重ねて仰せ候へ。」
 ワキ 「頼み申し候。」狂言 「心得申して候。」
 ワキ 「我等も左様に存じ候間、暫く御逗留なされ、敦盛の御跡をも懇ろに御弔い、
 ずるにて候。」
 ワキ 「かようの姿となり諸国を巡り候も。敦盛の御菩提のためにて候。」
 ワキ 「苔の衣を片敷きて。苔の衣を片敷きて。岩根の床に夜もす
 がら。念佛申し敦盛の。菩提を深く弔はん菩提を深く弔はん。」

シテ 中入 狂言 「斯様に候者は、津の国、須磨の浦に住まいする者にて候。今日は浦に出で、心を慰まばやと存する。いや。これに見慣れ申さぬお僧の御座候が、何處より何方へ御通りあらば、何とてこの所に御座候よ。」
 ワキ 「御不審尤もにて候。これは熊谷の二郎直實出家し蓮生法師にて候。」
 ワキ 「さては古源平合戦の折、無官の太夫敦盛を御討ち成されたる、熊谷殿にて候か。」
 ワキ 「左様に候わば、暫く御逗留なされ、敦盛の御跡をも懇ろに御弔い、
 御通りあれかしと存じ候。」
 ワキ 「我等も左様に存じ候間、暫く御逗留申し、敦盛の御跡をも懇ろに御弔い、
 ずるにて候。」
 ワキ 「かようの姿となり諸国を巡り候も。敦盛の御菩提のためにて候。」
 ワキ 「苔の衣を片敷きて。苔の衣を片敷きて。岩根の床に夜もす
 がら。念佛申し敦盛の。菩提を深く弔はん菩提を深く弔はん。」

シテ「いかに蓮生。敦盛こそ参りて候へ。さても如月六日の夜にも、
なりしかば。にて候経盛、我等を集め。今様を謡ひ舞ひ遊びし
に。」

ワキ「さてはその夜の御遊びなりけり城の内に。さも面白き笛の音
の。寄手の陣まで聞えしは。」

シテ「それこそさしも、敦盛が。最期まで持ちし、笛竹の。」

ワキ「音も一節を謡ひ遊ぶ。」

シテ「今様朗詠。」

ワキ「拍子を揃へ聲をあげ。」

シテ「さる程に。御船を始めて。」

地謡「一門みなみな船に浮かめば乗り後れじと。汀にうち寄れば。」

シテ「せん方波に駒を控へ。呆れ果てたる有様なり。かかりける處に。」

地謡「後より。熊谷の次郎直實。遁さじと。追つ駆けたり敦盛も。馬の。」

シテ「引き返し。波の打物抜いて。二打三打は打つぞと見えしが馬の。」

地謡「上にて引つ組んで。波打際に。落ち重なつて。終に。討たれて。」

シテ「失せし身の。因果はめぐり逢ひたり敵はこれぞと討たんとする。」

地謡「に。仇をば恩にて。法事の念仏して弔はるれば。終には共に。」

シテ「生まるべき同じ蓮の蓮生法師。敵にてはなかりけり跡弔ひて。」

地謡「賜び給へ跡とむらひて賜び給へ。」

(おわり)



プログラム

のう 能「敦盛」と狂言「柿山伏」

[1部]

1. 始まりのご挨拶とお話
 2. 狂言「柿山伏」実演
 3. 囃子「翔」実演
 4. 囃子のリズムに合わせて校歌齊唱
 5. 囃子の説明と小鼓体験
 6. 狂言「三番三」実演
- ～休憩 5分～ (学校の休憩時間にあわせて)

[2部]

1. 舞発表
2. 能「敦盛」実演
3. 質問と終わりのご挨拶

(公演時間：休憩時間を含め 95 分)

あらすじ

狂言「柿山伏」

修行を終え故郷に帰る山伏は、空腹のあまり途中にある柿の木に登り実を食べます。それを見た柿の木の持ち主は山伏をからかい、山伏は柿の木から落ち、けがを！柿の木の持ち主が帰ろうとすると…(続きを読むは当日のお楽しみに)
のう 能「敦盛」

出家した熊谷次郎直実が、自分が討ち取った平敦盛の菩提を弔おうと須磨(現在の兵庫県神戸市)の一ノ谷を訪れる。

すると、笛の音が聞こえ、4人の男が現れて…

出演者

シテ方／井上裕久	いの うえ ひろ ひさ	井上裕之真	いの うえ ひろ の しん	吉浪壽晃	よし なみ とし あさ	寺澤幸祐	てら さわ こう すけ	浦部幸裕	うら べ ゆき ひろ
吉田篤史	よし だ あつ し	鷲尾世志子	わし お よ し こ	河村浩太郎	かわ むら こ た ろう	寺澤拓海	でら さわ たく み	吉田和史	よし だ かず し
ワキ方／岡充	おか あかる								
囃子方／左鴻泰弘 (笛)	さ こう やす ひろ	久田陽春子 (小鼓)	ひさ だ や す こ	石井景之 (大鼓)	こ つづみ	い い かげ ゆき	おおづづみ		
狂言方／島田洋海	しま だ ひろ み	い ぐち たつ や							
井口竜也									



シテ方…主役だけでなく謡を謡う地謡や雑用全般と監督的な意味合いを持つ後見も行う

ワキ方…主役に対して現代でいうワキ役に近い意味合いのある配役

囃子方…笛、小鼓、大鼓、太鼓と能で使う楽器を扱う

狂言方…狂言で出演するだけでなく、能においても物語を説明したり盛り上げたりする間狂言として出演する

プロフィール

一般財団法人 能楽堂 嘉祥閣

能楽堂嘉祥閣は京都御所のすぐ近く、京都市の真ん中にある能楽堂です。
昭和35年より50年以上にわたって能楽の公演や学校向けのワークショップを行っています。

ウェブサイト <https://www.kashokaku.jp>
ブログ <https://ameblo.jp/kashokaku/>



前シテを務める
井上裕之真より
皆様へ！

皆さんこんにちは！井上裕之真です！
私は3歳の頃から能楽の舞台に立ち、今日まで能楽を続けてきました。
稽古や本番があるので学校を休んだり、遊びに行けなかったことも何度もあります。
それでも不思議と舞台に立つ事が嫌になった事はありません。
頑張って観て古をすれば、その分成長を実感する事が出来たからです。
今日は私を含めた演者全員の努力の集大成を楽しんで貰えればと思います。
ただ単純に、何か一つでも「すごい！」と感じて貰えれば嬉しいです！
今日をキッカケに能楽に興味を持ってください！